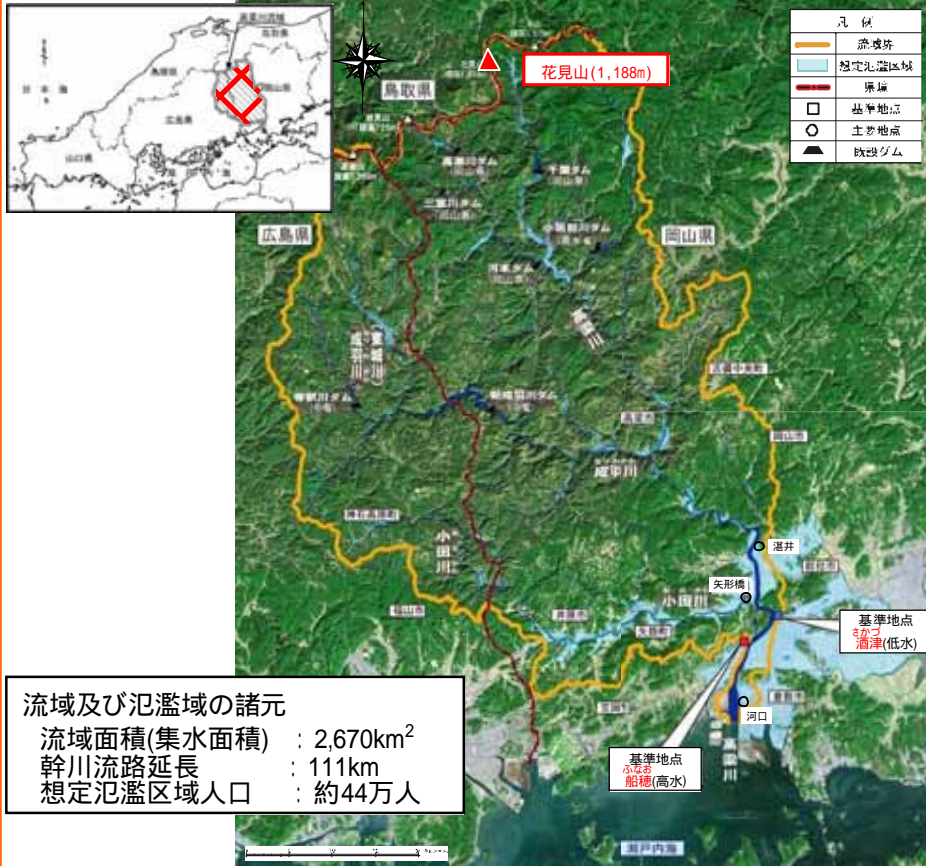


# 高梁川水系河川整備基本方針の概要

## 流域及び河川の概要

下流部では、岡山県第二の都市である倉敷市・水島コンビナートなど、資産の集積する岡山平野の西端を貫流

- 想定氾濫域は、干拓等によって形成された洪水氾濫に脆弱な低平地で岡山市域まで及び



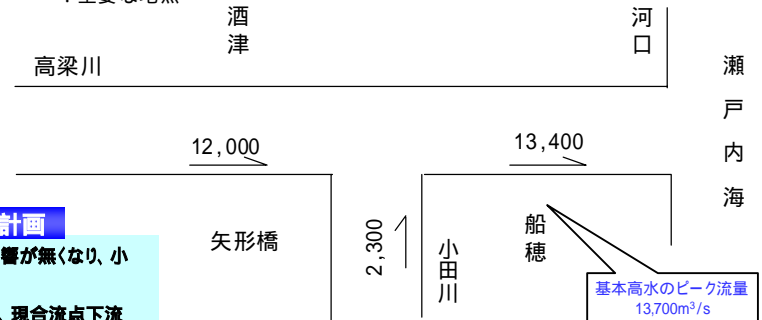
流域及び氾濫域の諸元  
 流域面積(集水面積) : 2,670km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 111km  
 想定氾濫区域人口 : 約44万人

## 災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/150相当)による検証、既往洪水からの検証等の検討結果を踏まえ、基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を13,700m<sup>3</sup>/s(船穂)と設定

### 【流量配分図】

(単位: m<sup>3</sup>/s)  
 : 基準地点  
 : 主要な地点



### 小田川合流点付替え計画

洪水時の高梁川背水の影響がなくなり、小田川水位が低下  
 小田川を分流させることで、現合流点下流にある倉敷市街地の氾濫危険度を低減



基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存施設の有効活用により対応  
 流下阻害の一因となっている固定堰を改築  
 堤防漏水の生じやすい箇所については、漏水対策や堤防強化を図る  
 小田川と高梁川の合流点を下流に変更することにより、洪水時の小田川水位を低下  
 河道掘削による河積確保にあたっては河道の維持等に配慮し、上流からの土砂供給等を監視・把握しながら計画的に実施

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携し必要な流量の確保に努める
- 酒津地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、概ね16 m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする

## 河川環境の整備と保全

- アユなど回遊性魚類の遡上環境の確保や生息環境、タナゴなどの重要種の産卵場・生息場の保全に努める
- 帝釈峡をはじめとする渓谷部の景観の保全や下流部における地域の象徴としての河川景観の維持・形成に努める



たかはしがわ  
高梁川水系（流域面積：2,670km<sup>2</sup>、幹線流路延長：111km）

高梁川は、その源を岡山・鳥取県境の花見山（標高1,188m）に発し、新見市において熊谷川、西川、小阪部川、高梁市において成羽川などの支流を集めて流下し、倉敷市において小田川を合わせ、倉敷・玉島平野を南下して瀬戸内海の水島灘に注いでいる。

その流域は岡山・広島県にまたがり、下流部には岡山県第2の都市である倉敷市が存在し、水島コンビナートも形成され資産が集積している。中上流部では比婆道後帝釈国定公園、高梁川上流県立自然公園等が指定されており、帝釈峡、井倉峡、山野峡等の景勝地、国指定天然記念物の鯉ヶ窪湿原などの豊かな自然境に恵まれている。

高梁川では、明治、大正期に国の第1期改修工事を行ったが、その後も破堤や浸水被害が発生している。また、高梁川の河口域は地盤高が低く、ゼロメートル地帯が広範囲に存在し、高潮に対して脆弱で、平成16年台風16号による高潮では、観測史上最高の潮位を記録し、家屋浸水、護岸崩壊等の被害を受けた。支川小田川については、洪水時に本川水位の影響を受けて高い水位が長時間継続するため、昭和47年7月洪水、昭和51年9月洪水など内水被害が頻発している。

このような状況を踏まえ、沿川地域を洪水から防御するため、高梁川の豊かな自然環境に配慮しながら、堤防の拡築及び河道掘削、固定堰の改築等により河積を増大させ、計画規模の洪水を安全に流下させるとともに、河口域の高潮対策も実施する。支川小田川は、高梁川への合流点位置を下流に付け替えることにより小田川水位の低下と高梁川狭窄区間の酒津周辺の負担軽減を図る。また、洪水等による被害を極力抑えるため、関係機関や地域住民等と連携して、総合的な被害軽減対策を推進する。

流域の人々と高梁川の関わりを考慮しつつ、高梁川の流れが生み出す良好な河川景観を保全するとともに、多様な動植物の生息・生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐように努める。

（基本高水のピーク流量及び計画高水流量）

高梁川の基本高水のピーク流量は、既定の工事实施基本計画と同様に基準地点船穂において13,700m<sup>3</sup>/sとし、河道と洪水調節施設への配分については、工事实施基本計画ではそれぞれ12,200m<sup>3</sup>/s、1,500m<sup>3</sup>/sとしていたが、河道計画を見直し、それぞれ13,400m<sup>3</sup>/s、300m<sup>3</sup>/sとした。